



問 津市地域公共交通計画と公共ライドシェアについて問う

市内全域でデマンド型バスへの移行に向けて進めているが、地域によって課題や要望も違うため、一律の移行は難しい。そこで、交通空白地においては公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）の制度を活用してNPO法人等の地域主体で運営し、そこに津市が補助金を出すような考えはないのか。また、そのような取り組みを次期地域公共交通計画に位置付けていくべきではないか。

答 地域主体の運営も含め次期計画の策定の中でしっかり検討する

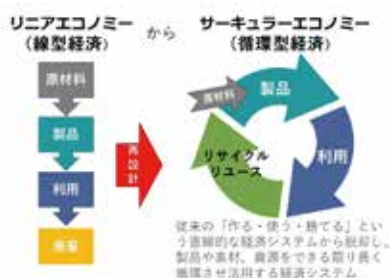
現在検討中のデマンド型交通については、これまでのように定時定路線をバス事業者などに運行していただくという形態とは異なる仕組みを考えており、引き続き公共ライドシェアの制度によりデマンド型交通を運行する地域は、この公共ライドシェアの枠組みの中で行っていくことになる。

したがって、運用の改善がなされ、活用へのハードルが緩やかになっている公共ライドシェアの仕組みの下で、新たな運用も考えられるので、地域主体の運営も含めて、公共ライドシェアの仕組みの中でどうマッチするのか早急に考え、次期地域公共交通計画の策定の中で検討していく。

その他の質疑・質問

- 議案第29号 令和7年度津市一般会計予算
- 広報関係予算について
- シェアサイクル実証実験について
- 学校施設改修特別推進事業について
- 教育ICTヘルプデスク運営事業について
- 学校体育館の空調設備設置について
- 環境負荷を減らすための市民意識改革について

脱炭素社会を目指すためのシステム、サーキュラーエコノミー（循環型経済）



問 女性活躍の推進と男性の働き方改革でジェンダー平等へ

「家事をするのは女性の役割」のような発想を性別に基づく役割意識、つまり「固定的性別役割分担意識」といい、「女性は家で家事・育児をするべき」という考え方と「男性は外で働き家族を養うべき」という考え方が合わさり、本人の意思や希望、得意・不得意に関わらず、性別に基づいてやるべきことが決まる。ジェンダーに基づく決め付けを改め、ワーク・ライフ・バランス向上を。

答 魅力的で働きやすい環境づくりを推進していく

男女が共に仕事や家庭生活等に参画し、働くことを希望する全ての人が仕事と家庭生活を両立できるようにするためには、事業所および勤労者が働き方や固定的な性別役割分担意識を見直す必要があることから、今後も事業者訪問を継続し、男性・女性を問わず、誰もが生き生きと活躍できる魅力的で働きやすい環境づくりを推進していく。

また、市役所で働く職員に対しても、男性の育児休業や介護休暇の取得について案内するほか、家庭における男女共同参画の推進を目的とした研修を行っており、今後も男女を問わず職員のワーク・ライフ・バランスの向上を図っていく。

その他の質疑・質問

- 水道修繕工事をめぐる事件について
- 津市内の下水道管路の緊急点検を行った結果は
- 「上下水道耐震化計画」について
- 一身田町地内で起きた水道水の濁りへの対応は
- 被爆80周年の取り組みとして「核兵器禁止条約」の早期締結を求めるオンライン署名の促進を
- 若い世代への平和学習の展開は

6歳未満の子どもを持つ日本人男性の1日あたりの家事・育児時間を83分から150分に



出典：内閣府男女共同参画局